

令和元年度 第2回滋賀県原子力安全対策連絡協議会 会議概要

滋賀県防災危機管理局原子力防災室

I 日 時 令和2年1月28日（火）12時30分から15時10分まで

II 場 所 国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構
敦賀総合研究センター 情報棟 ホール

III 出席者 別添名簿参照

IV 内 容

1 会長挨拶

皆さま、こんにちは。滋賀県の防災危機管理監の嶋寺でございます。市町の皆さま、日本原子力研究開発機構の皆さまにおかれましては、日ごろから滋賀県の原子力防災の推進に対しまして、ご理解とお力添え賜りまして、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。また、本日は、ご多用のところ、連絡協議会にご出席賜りまして本当にありがとうございます。

さて、原子力を取り巻く状況としては、福井県の原子力施設においては、大飯発電所の1、2号機、美浜発電所の1、2号機、敦賀発電所1号機、高速増殖原型炉もんじゅおよび新型転換炉原型炉ふげんで廃炉作業が進んでいるところで、その中でも、高速増殖原型炉もんじゅについては、使用済み核燃料の取り出しにおいてナトリウムを取り除く、前例のない困難な作業が長期間におよび、昨年7月に開催した第1回滋賀県原子力安全対策連絡協議会で日本原子力研究開発機構様よりもんじゅの廃炉作業について説明を受けてきたところです。

また、平成30年の8月から廃炉作業が進む中で県に対していくつかのトラブルの連絡を受けているということから、この第2回の協議会では、実際にもんじゅを視察して、もんじゅの仕組みとあわせて現場での安全対策等の取組について、情報を共有できたということ、今日の現地視察とかねて連絡協議会を開催したところ、

限られた時間でございますけれども、本日の視察が皆さまにとって、有意義な時間となりますことを願ひまして、当協議会の会長としての開催にあたりましての挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございます。日本原子力研究開発機構の方どうぞよろしく願いいたします。

2 視察

(1) もんじゅの仕組みについて

- ・もんじゅの配管模型や現場の縮小モデル等
- ・ナトリウムの切断体験や燃焼実験

(2) 廃炉作業の状況

- ・もんじゅ内での燃料取り出し作業の現場や中央制御室等

3 質疑応答

○湖南省

ご説明、ありがとうございました。いろいろ説明いただき、たくさんの方がおられるのですけれども、実際何人ぐらいの方がおられて、廃炉に向けてどれくらいの時間と費用がかかるか教えていただけますでしょうか。

○日本原子力研究開発機構

お答えさせていただきます。まず、現在働いている人数ですが、機構の職員が約300人います。あとは協力会社さん、原子力機器メーカーさん他が約700人でトータル約1000人が増えたり減ったりしています。あと、廃止措置に係る費用でございしますが、廃止措置計画の中に解体とか廃棄物処分費等も入れて約1500億円の金額が必要だという廃止措置計画作成時点での見積もりをして、廃止措置計画の中に書かせていただいています。

○草津市

初めて見ることで、あっという間に時間が過ぎたというのが感想ですけれども、中央監視室にも人がおられて、監視をされているということで、そこにおられる方はどういう形での雇用をされているのでしょうか。見させていただくと福井県の方だけでなく、いろんな地域の方も日直でおられたかと思うんですけど、そこらあたりの把握はされているのでしょうか。

○日本原子力研究開発機構

まず、中央制御室で働いている人間は、我々の職員でございます。機構との直接雇用です。中央制御室入口のメンバー表に出身地を記載しているのは我々の人事情報でして、見学いただいた方に親近感を持っていただけるかなと思い、福井の人がこんなにいるんだとか、地元の者もここで働いているんだと思っただけかなということで記載しております。

○栗東市

本日はどうもありがとうございました。私、もともと滋賀県の湖南消防というところで勤務しておりました。定年を迎えて栗東市の危機管理課のほうにいまして、東北の地震の時に滋賀県隊として現場へ行かせてもらった経験があるんですけど、今日こうやって見させていただいて、廃炉に向けてということで、放射線は目に見えない、匂いもしないということで、東北地震の時も初動で行ったものですからかなりの緊張感がありました。放射性物質が漏れているという情報がなかなかない中で、消防隊として活動していた経験があるんですけど、安全には安全を十分協議を尽くされたうえでの事業継続というか廃炉に向けての事業だと思うんですけど、一

つお願いと言いますか、本当に安全には安全をこれ以上の安全はないという、想定外とかいうことではなしに、あらゆる点を考えていただいて、滋賀県民もかなりの人数がいるんですけど、安全に過ごせますように、ご努力いただけたらなと思います。本日はどうもありがとうございました。

○日本原子力研究開発機構

ありがとうございます。人知を尽くして、我々が想像しうる範囲全ての確認をしながら安全第一に進めて参りますので、引き続きお願いします。

○嶋寺防災危機管理監

滋賀県の嶋寺です。先ほどおっしゃったように滋賀県においても、原子力の事故が発生した時には、被害が及ぶということでリスクがあるということでございます。発電だけでなく、廃炉作業においても、廃炉になってきたらリスクが下がるのではないかというような、一般の人はそういう思いを持っているかもしれないが、全然そんなことなく、反対に廃炉作業の方が慎重にやっていただかなくてはならないところもあるかと思えます。そんなことで、職員の方だけでなく下請けの方も含めて、人材育成あるいは安全対策に万全を期して、あと 30 年かかるということで、事故が起こらないようにということで取り組んでいただきたいと思いますので、私の方から再度要望させていただきますので、ご配慮よろしく願いいたします。

○日本原子力研究開発機構

繰り返しになりますけれど、ご指摘の点は、我々としても十分認識しており安全第一で進めて参ります。核燃料物質の拡散という事故が原子力施設においては一番ひどいものになります。その観点からも、速やかに原子炉容器の中にある燃料集合体を燃料池の中に運び出すことが、より安全な状態に持つていくために重要です。現実の状態としては、もんじゅの使用済み燃料は、1 体あたり最高でも 200W ぐらいのほぼほぼ残余熱というのはない状態でございますので、水プールの中でしっかりと安全に保管していけると思っています。まず、この作業を速やかに進めるというのが、もんじゅの施設の中のリスクを下げる一番の要素だと思っています。

一方、ここから先、解体作業を行っていく上で、我々が気にしないといけないのは、運転状態と違って、解体工事というのは現場工事であるということです。海外の高速炉廃止措置の先輩から言われたのは、放射線事故というよりも高所作業だとか重量物作業だとか、そういう労働災害を注意していかないといけないということです。運転しているプラントというのは現場の状態に変化がない、廃止措置に移行すると現場の状態が日々変わっていくので、そこを注意をするべきだとも言われました。今後、燃料取出し後の新たなフェーズになれば、そういうところをしっかりと注意して進めて参りたいと思っています。